

保育者養成課程の音楽ゼミナールにおける地域貢献の試み

岩佐 明子

本論は、筆者が担当したゼミナールが学内外で実施した地域貢献活動について報告するものである。本活動を展開するにあたり、打楽器アンサンブルやピアノ等の演奏発表に加え、イベントや参加者の年齢層にふさわしいと考えるプログラムの内容を検討した。また、参加者を対象としたアンケート調査の結果や反応、受講生の取り組みについて記載する。

キーワード：音楽教育、地域貢献活動、ゼミナール

1. はじめに

筆者が担当する「保育ゼミⅠ」（2年次前期開講、卒業必修科目）、「保育ゼミⅡ」（2年次後期開講、卒業必修科目）では、打楽器アンサンブルをとおして各楽器の演奏法を習得するとともに、アンサンブル活動による音楽的感性の獲得を目標としている。また、学生が地域住民、子ども、各種施設の利用者を対象とした音楽的な活動を立案の上、イベント等で発表し、それぞれの場に応じた実践力を身につけることも目指している。本論は、2017年度に筆者が担当した「保育ゼミⅠ」における指導と、「保育ゼミⅡ」で実践した取り組みについて報告する。また、参加者を対象としたアンケート調査をもとに、活動の改善点を検討することを目的とする。

2. 担当科目の授業内容

2-1 授業の概要と学習成果

本学幼児教育学科の「保育ゼミⅠ」、「保育ゼミⅡ」では、共通する授業概要と学習成果を根幹として、教員の専門性を活かした内容を取り入れている。学生は、ゼミナールの所属にあたり、1年次後期に、説明会や相談会をとおしてゼミナールの特徴や授業内容を理解し、人数制限

等の条件はあるものの、希望するゼミナールを選択することができる。「保育ゼミⅠ」を修了した学生は、引き続き同じ教員が担当する「保育ゼミⅡ」を履修するため、教員は1年間をとおして学生を指導することになっている。

筆者が担当した2017年度開講科目「保育ゼミⅠ」、「保育ゼミⅡ」のシラバスで示している授業の概要と専門的及び汎用的学習成果は、以下のとおりである（表1）。下線部は全ゼミで共通する部分である。

これらの専門的及び汎用的学習成果を達成するために、筆者の担当するゼミナールでは打楽

表1 「保育ゼミⅠ」、「保育ゼミⅡ」の授業の概要と専門的及び汎用的学習成果

保育ゼミⅠ（2年次前期開講、卒業必修科目） 授業の概要： 興味・関心を共有する仲間と共に、卒業研究（論文・作品・演奏）に向け、計画を立て主体的に課題に取り組む。 専門的学習成果： 打楽器やピアノのアンサンブル演奏をとおして、音楽の三要素とされる「リズム・メロディー・ハーモニー」が理解できる。 汎用的学習成果： 問題発見・解決力、論理的思考力、自己管理能力、倫理観、コミュニケーション・スキル、チームワークに貢献できる力等を獲得する。

保育ゼミⅡ（2年次後期開講、卒業必修科目）

授業の概要：

「保育ゼミⅠ」での取り組みを深め、その成果を卒業研究（論文・作品・演奏）としてまとめ発表する。

専門的学習成果：

「保育ゼミⅠ」で学んだ打楽器の演奏技術や、表現力を更に高めることができる。保育現場で使用されている教育楽器の指導法を学び、保育者として必要な音楽的な実践力を身につけることができる。打楽器及びピアノのアンサンブル演奏をととして、既存の楽曲を編曲することができる。

汎用的学習成果：

「保育ゼミⅠ」で獲得した問題発見・解決力、論理的思考力、自己管理能力、倫理観、コミュニケーション・スキル、チームワークに貢献できる力等を更に高める。

器を用いたアンサンブル活動を展開し、学内外のイベント等において保育の視点を取り入れた発表活動を行っている。

2-2 ビート感の育成

前述したとおり、学生はゼミナールの所属にあたり、説明会や相談会においてゼミナールの主な活動内容を理解し、希望するゼミナールを選択する。筆者のゼミナールでは、打楽器アンサンブルやピアノ等を用いた活動を行うことをあらかじめ知らせている。その結果、筆者のゼミナールを希望する学生の音楽的な傾向として、楽器の演奏や歌唱等の演奏活動を好み、単独ではなくアンサンブルの形態で演奏することを望んでいることが多い。

2017年度の受講生の内、入学までに吹奏楽等の音楽系クラブ活動でアンサンブルを経験していた学生は、16名中10名であり、6名は全く経験がなかった。また、アンサンブル経験があっても、個々の演奏力、音楽的な表現力、ビート感には差があることがわかった。

本ゼミナールでは、指揮者を置かずアンサンブルの形式で演奏するため、正確なビート感を

育成することも重視している。そのため、「保育ゼミⅠ」では第1回目から第10回目までの授業の開始から15分程度を使い、小太鼓を打つための基礎的なスティックワークを取り入れた。小太鼓を用いて実践すると余韻が残りすぎ、音量が大きくなるため、音を吸収するドラムトレーニングパッドを用いて、正確に拍を打つことができているか聴きとるよう促した。スティックの持ち方は、左右で持ち方が異なるトラディショナル・グリップではなく、両手の持ち方が同じであり、保育・教育現場で多く用いられているマッチド・グリップを選択した。練習の環境は、自らのスティックワークを確認できるように、全身を映すことのできる鏡が設置されている教室を使用した。また、学生が互いに確認し改善するためにグループワークを行った。スティックワークでは市販されている楽曲の練習曲¹⁾を用い、メトロノームを用いながら一定のテンポ、強さで打つことができるように指導した。

スティックワークでは、ピアノ等の一人で演奏する楽器経験が長い学生より、吹奏楽等でアンサンブル経験がある学生ほど正確なリズムを打ち、コントロールできる傾向が見られた。

また、音板（鍵盤）打楽器の音階及び半音階の演奏技術の習得も、メトロノームを用いて行った。

指導の前提として、受講者は保育者養成課程に在学しているため、楽器の演奏技術の向上を目的とするのではなく、音楽の喜びや楽しさを実感し友人と共有することも重視している。そのため、ペアを組んだ練習方法も取り入れた（譜例1・2）。

譜例1の音階の練習では、上向きの符尾を演奏するグループと下向きの符尾を演奏するグループに分け演奏した。譜例2の半音階の練習

譜例 1



譜例 2



では、高音部譜表を演奏するグループと低音部譜表を演奏するグループに分けて演奏し、アンサンブルの特徴である音の重なりや協働作業を楽しめるよう試みた。

3. 学内外での活動報告

2017年度のゼミナールで習得した楽曲を演奏形態別にまとめた(表2)。また、出演した学内外のイベント等の概要は、以下のとおりである(表3)。

各イベントでは、習得した楽曲の中からイベントの趣旨にふさわしいものを選択した。

学生は、イベントの趣旨を充分理解した上で、自分たちにどのような学びがあるか、地域社会にどのように貢献できるか等の意見交換を行い、出演の可否を決定した。

また、イベントの打合せや立案を中心的に行うリーダー2、3名を決め、協働して取り組むことにも留意した。更に、リーダー経験を積む学生が偏らないように、全員がいずれかの活動でリーダーになるように配慮した。

なお、イベントの出演、実施において、教員はあくまでも助言者及び支援者であり、学生が主体的に取り組むように留意した。

表2 「保育ゼミⅠ」・「保育ゼミⅡ」で習得した楽曲

楽曲名	演奏形態
L. ハーライン作曲「星に願いを」、久石譲作曲「Summer」、G. ホルスト作曲「Jupiter」	ピアノソロ
三木たかし作曲「アンパンマンのマーチ」、久石譲作曲「となりのトトロメドレー」、黒須克彦作曲「夢をかなえてドラえもん」、A. ハチャトリアン作曲「剣の舞」、葉加瀬太郎作曲「情熱大陸」	打楽器アンサンブル
L. アンダーソン作曲「そりすべり」、山下達郎作曲「クリスマス イブ」	トーンチャイム

表3 2017年度に出演した学内外のイベントの概要

	イベント名称	主催	開催日	場所	対象
①	“音”を楽しもう	ぶんきょうにこにこルーム	2017年 10月26日 (木)	京都文教短期大学 月照館M201	ぶんきょうにこにこルーム (子育て支援室)に 来室した親子
②	宇治市民文化芸術祭 舞台の部	宇治市・宇治市芸術文化協 会・(公財)宇治市文化セン ター・宇治市民文化芸術祭実 行委員会	2017年 10月29日 (日)	宇治市文化センター 大ホール	宇治市民文化芸術祭の来場者
③	ともいきフェスティバル	京都文教大学地域協働研究教 育センター	2017年 12月9日 (土)	京都文教大学 サロン・ド・パドマ	ともいきフェスティバル 来場者
④	“音”を楽しもう	京都文教短期大学「保育ゼミ II」(岩佐担当)受講者	2017年 12月17日 (日)	Aショッピングモール	Aショッピングモール来場者
⑤	Light Children 出張コンサート	A幼稚園父母の会	2018年 1月11日 (木)	A幼稚園	A幼稚園の園児

3-1 ぶんきょうにこにこルームにおける活動

ぶんきょうにこにこルームは、宇治市から委託を受けた子育て支援室であり、本学のキャンパス内に設置されている。広く地域に開放しており、1日平均40組の親子が来室し、学生の実践的な学びの場ともなっている。ゼミ生は、来室した親子と音楽をとおして交流することを目的に、「音」を楽しもう」を企画、立案、実施した。筆者はゼミ生の企画案に助言し、本学地域連携及びぶんきょうにこにこルームスタッフの協力のもと学内調整等を行った。活動の概要、演奏発表以外の活動、プログラム(表4)は以下のとおりである。

(1) 活動の概要

名称:「音」を楽しもう」

対象者: ぶんきょうにこにこルームの利用者

日時: 2017年10月26日(木) 13:00～14:15

場所: 京都文教短期大学月照館 M201

目的: ぶんきょうにこにこルームに来室した親子と、音楽をとおして交流する。

準備: 活動内容において参加者に床に座ってもらう必要があったため、ぶんきょうにこにこルームのスタッフに協力要請し、床にマットを敷いた。学生と子どもがイベントの開始時間まで共に楽しめるように、学生が動物のパペットを作成した。

広報: ぶんきょうにこにこルームが毎月発行し、利用者に配布している「にこにこ通信」の掲載文に、イベント実施の前月に以下の告知を行った。

「打楽器アンサンブルに取り組んでいる音楽ゼミのお姉さんたちが、木琴や鉄琴を使って「となりのトトロ」や「アンパンマンのマーチ」を演奏してくれます。音を使った親子遊びもありますよ。いっしょに音楽を楽しみましょう♪(音楽演習室に移動して行います。)」

(2) 演奏発表以外で取り入れた活動

① 音楽を用いた親子のふれ合いあそび

ゼミ生から、音楽を用いた親子のふれ合いあそびの活動を取り入れる提案がなされた。ぶん

表4 ぶんきょうにこにこルームにおける活動のプログラム

時 間	活動内容	留意点
13:00～	参加者の迎え入れ： ピアノソロでWelcome musicとして「星に願いを」、「Summer」、「Jupiter」を演奏する。 ピアノの演奏者以外のゼミ生は、パペットなどを用い参加者と交流する。	参加者にリラックスしてもらうことを目的とするため、ピアノは教室の隅に移動し、弱音で柔らかい音色で演奏する。
13:15～	ゼミの紹介： 司会者1名が、本ゼミの紹介と本イベントの目的を説明する。	子どもが楽器に触れないようお願いし、参加者に円になって座ってもらう。司会以外のゼミ生は適宜参加者の中に入る。
13:20～	親子のふれ合い遊び： 親子のふれ合い遊びの意義や方法を説明する。親子の触れ合い遊びの例として「生後すぐからできる赤ちゃんのリズム体操」から、「ぐるぐるりんりん」 ²⁾ 、「きらきらあおいうみ」 ³⁾ を実施する。	参加者同士がぶつからないように配慮する。兄弟姉妹で参加している子どもは、ゼミ生が保護者の代わりになり子どもと触れ合い遊びを楽しむ。
13:30～	打楽器アンサンブル演奏： 「アンパンマンのマーチ」、「夢をかなえてドラえもん」、「トトロメドレー」を演奏する。	演奏の前に「アンパンマン」の手遊びをする。
13:50～	効果音を用いた絵本の読み聞かせ： 絵本「だるまさんが」 ⁴⁾ の読み聞かせを行う。	「夢をかなえてドラえもん」は、歌詞をスライドに映しゼミ生も歌う。大型絵本を用いる。絵本の各場面にあわせて効果音を、楽器及び声を使って鳴らす。
14:00～	参加者と共に演奏する： ゼミ生1名が橋本晃一作曲「手をたたきましょう」のピアノ伴奏を演奏し、他のゼミ生と参加者は歌う、もしくはマラカスを鳴らして楽しむ。	子ども用のマラカスを配布し、一緒に演奏を楽しむ。
14:10～	まとめ：イベントのまとめと御礼の言葉を述べる	

きょうにこにこルームを訪れる子どもは、0歳から就学前までと幅広いが、どの年齢でも楽しむことができる活動を、図書館の書籍やweb.を用いて調査した。その結果、市販されている書籍「生後すぐからできる赤ちゃんのリズム体操」より、「ぐるぐるりんりん²⁾」と「キラキラあおいうみ³⁾」の楽曲を選択した。

「ぐるぐるりんりん」は、生後すぐから親子でできるあそびであり、年齢に応じて様々なヴァリエーションがある。本活動は、生後2か月前後の時期からのあそびとして提案されており、保護者が赤ちゃんを縦抱きにし、「ぐるぐる」の歌詞でその場で回り、「りんりん」の歌詞で止まる方法を採用した。また、「キラキラあおいうみ」も、生後2か月前後の時期からのあそびとして提案されており、「ママ（パパ）のおひぎを電車に見立てて、揺れを楽しむあそび³⁾」を採用した。共に、司会の学生がぬいぐるみを子どもに見立てて用い解説し活動に入った。更に、司会

以外の学生は参加者の中に入り、兄弟姉妹で参加している子どもに、保護者の代わりとなって活動した。

②効果音を用いた絵本の読み聞かせの活動

絵本「だるまさんが⁵⁾」の各場面における効果音をゼミ生がやり取りを重ね考案した。ゼミ生が絵本を見て感じただるまさんの様子、使用楽器、効果音譜例、考案した理由は以下のとおりである（表5）。なお、各場面を読んだ後に効果音を鳴らし、声に音が重ならないよう配慮した。

3-2 参加者対象のアンケート調査

(1) 調査対象者

「“音”を楽しもう」に参加した保護者26名を対象とした。

(2) 調査時期

2017年10月26日（木）に実施したイベント「“音”を楽しもう」終了直後において調査した。

表5 絵本「だるまさんが」の各場面における効果音

だるまさんの様子	使用楽器	効果音譜例	考案した理由
横に倒れる	マリンバ		だるまさんの柔らかい輪郭や倒れた時の重みを表現できる楽器として、マリンバを選択した。また、柔らかい音色を出すために太い毛糸巻きのマレットを選択した。
下に縮む	声		様々な楽器で試行錯誤したが、ふさわしいものが見当たらなかったため、声の下行ポルタメントで表現した。
おならをする	あひる笛		音程を持たない楽器で場面にふさわしく滑稽な音色を持つあひる笛を選択し短く鳴らした。
上に伸びる	スライドホイッスル		上に伸びていく様子を滑らかに表現するために、スライドホイッスルを選択し上行形を演奏した。
手と足を揃えて笑う	シロフォン		だるまさんが、可愛く両手両足をきちんと揃えている様子を表現するために、硬い音色を持つシロフォンを選択した。マレットは硬い音色になり過ぎないように注意し選択した。

(3) 調査内容

調査内容は「“音”を楽しもう」に関する以下の項目である。

①子どもの年齢、性別、②子どもが楽しそうにしていた活動は何か（複数回答可）、③保護者が楽しかった活動は何か（複数回答可）、④本イベントの感想（「良かった」、「普通」、「良くなかった」の3段階で評価する。また、その理由を自由記述で回答する。）、⑤今後取り入れて欲しい音楽的な活動や要望、⑥合奏やピアノで聴きたい曲の6項目である。本論では、項目②から⑥を取り上げる。

(4) 調査方法

質問紙を使用したアンケート調査を実施した。回収率は100%であった。

(5) 倫理的配慮

調査対象者には、筆者が質問紙を配布し、口頭及び文書で、研究への参加は自由意志によるものであり、参加、不参加の選択により不利益を受けることが無いこと、回答者の個人を特定しないものであること、教育・研究の目的以外

には使用しないことを説明し、研究協力を依頼した。

(6) 調査結果

項目②：子どもが楽しそうにしていた活動

本活動の調査結果は、打楽器アンサンブル演奏「アンパンマンのマーチ」（15件）、「となりのトトロメドレー」（15件）、効果音を用いた絵本の読み聞かせ（10件）であった。

項目③：保護者が楽しかった活動

本活動の調査結果は、打楽器アンサンブル演奏「アンパンマンのマーチ」（15件）、親子の触れ合い遊びの「ぐるぐるりんりん」（12件）、効果音を用いた絵本の読み聞かせ（10件）であった。

項目④：保護者の感想

本活動の調査結果は、全ての回答が「良かった」であった。また、理由として記述された内容からキーワードを抽出した結果、保護者自身の感想と子どもの様子について書かれたものの2種類に分けることができた。更に、プログラムの内容、演奏、ゼミ生の対応、その他の項目別

に分類した。

プログラムの内容に関する保護者自身の感想は、「子どもが喜ぶ内容で良かった」、「大人も子どもも両方が楽しめる内容」、「選曲が良い」、「手遊びや子どもと一緒に参加できる内容で楽しむことができた」であり、子どもの様子は「最初から最後まで飽きること無く楽しんでいた」、「子どもがマラカスを鳴らして楽しんでいた」であった。

演奏に関する保護者自身の感想は、「生演奏で感動」、「あたたかな音色に触れることができた」、「自分が保育園の頃に木琴を演奏したことを思い出し感動した」、「綺麗な音の楽器だった」であり、子どもの様子は、「音に合わせて楽しそうにしていた」、「子どもが自然と身体を揺らして手をたたいて楽しんでいた」であった。

ゼミ生の対応に関する保護者自身の感想は、「学生の子どもの興味を引く話し方や丁寧な対応が良かったため楽しく過ごせた」、「笑顔がとても素敵」であり、子どもの様子は、「学生がとても楽しそうな様子だったので子どもと一緒に楽しんでいた。」であった。

その他の保護者自身の感想は、「0歳児を連れていくことができる演奏会がなかったため身近に参加のしやすい形で開催し参加でき良かった」であった。

項目⑤：今後取り入れて欲しい音楽的な活動や要望

本活動の調査に記述された内容からキーワードを抽出した結果、開催要望として「またこのような機会をつくってほしい、また演奏を聴きたい、月に一度定期的に開催して欲しい」があった。また、体験型コンサートの要望として、「子どもでも使える楽器の体験」があった。

項目⑥合奏やピアノで聴きたい曲

本活動の調査結果は、「童謡、季節の曲、ジブ

リ、アンパンマン、トーマス、クラシック、クリスマス曲、JAZZ、ポップス」であった。

3-3 A ショッピングモールにおける活動概要

2017年度前期、A ショッピングモールから本学フィールド・リサーチ・オフィス及び地域連携室へ、地域に根差した活動を実施するために本学と連携する提案がなされた。その後、地域連携室より本ゼミに音楽をとおした地域貢献についての打診があった。

学生は、イベントに参加した子どもと手作り楽器を作り、演奏し、来場者と音楽をとおして交流することを目的に企画、立案、実施した。筆者は学生の企画案に助言し、本学地域連携室の協力のもと学内調整等を行った。活動の概要、演奏発表以外の活動、プログラム（表6）は以下のとおりである。

なお、公演は2回行っているが、同プログラムで実施している。

(1) 活動の概要

名称：「“音”を楽しもう」

対象者：A ショッピングモール来場者、手作り楽器の製作は未就学児60名に限定した。

日時：2017年12月17日（日）第1部13:00～14:00、第2部16:00～17:00

場所：A ショッピングモール1階アトリウム

目的：子どもと手作り楽器を製作し共に演奏し交流する。来場者に演奏を聴いていただく。

準備：A ショッピングモール副支配人、地域連携室長、学生、筆者で2回の打合せを行った。第1回目は、活動内容、当日の準備物、演奏する時間帯、手作り楽器の内容について打ち合わせた。第2回目は、A ショッピングモール館内の下見を行い、打楽器運搬の導線、演奏する吹き抜きのアトリウムにおけるトーンチャイムの音の響

表6 A ショッピングモールにおける活動のプログラム

時 間	活動内容
13:00～	手作り楽器の製作:
13:25～	打楽器アンサンブル演奏: 「アンパンマンのマーチ」、「夢をかなえてドラえもん」、「トトロメドレー」を演奏する。
13:40～	トーンチャイムの演奏: 「そりすべり」、「クリスマスイブ」を演奏する。
13:30～	打楽器アンサンブル演奏: 「剣の舞」、「情熱大陸」を演奏する。

き、手作り楽器に使用する机及び椅子、マイクスタンド、スピーカーなど当日必要な本学からトラックで運搬する物品、A ショッピングモールで借用する物品の確認を行った。

広報: A ショッピングモールが発行しているチラシに、以下の告知を掲載した。

「京都文教短期大学の学生と一緒に、クリスマスにぴったりのオリジナルマラカスを作ってみませんか? 打楽器アンサンブルの演奏もありま

す♪*マラカス作りは各部先着 30 名様限定 (小学生以下のお子さま対象)」

更に、学生が作成したチラシを、イベント当日に A ショッピングモールで配布した (図 1)。

(2) 演奏発表以外で取り入れた活動

①手作り楽器を製作する活動

手作り楽器は、ぶんきょうにこにこルームにおけるイベントで、子どもに好評だったマラカスを模して製作した。本活動には、各部とも未就学児 30 名が保護者とともに参加した。

また、当日までにマラカスの原型を準備した。材料は、紙コップ、画用紙、色ペン、マスキングテープ、クリップ、ビーズ、鈴、シールである。準備の手順は、紙コップの中にクリップ、ビーズ、鈴の中から 1 種類を入れ、その紙コップの縁に別の紙コップの縁を合わせ、黒色のマスキングテープで接合する。肌色の画用紙でサンタクロースの顔、赤色の画用紙で帽子と服、白色の画用紙でヒゲと帽子の飾りを型に沿って切り取り、それらを紙コップに貼った。

イベント当日は、学生の補助のもと、参加者が自由にサンタクロースの顔に目や口をペンで描き、顔と飾りのシールを紙コップに貼り付けた。完成後に、マラカスの中の物 (クリップ、ビーズ、鈴) による音の違いに対する気づきを導く言葉かけも行った。また、参加者は、学生が演奏する音楽に合わせて、手作り楽器を振っ



図 1 学生が作成したチラシ

ていた。

手作り楽器の見本は、以下のとおりである（図2）。

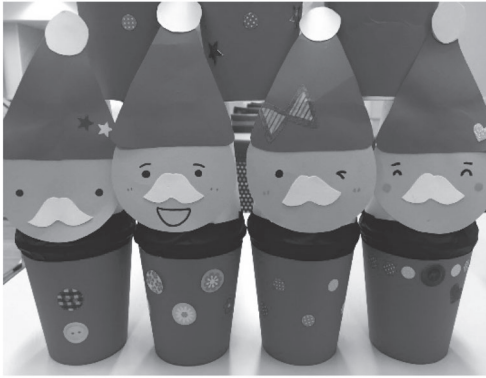


図2 手作り楽器の見本

会場のアトリウムは、A ショッピングモールに訪れた客が買い物途中に気軽に立ち寄れる2階まで吹き抜けの広い空間である。50席の座席を設けたが、活動開始時には満席となり、多くの観客は立ち見となった。正確な来場者数は不明だが、目視では各部とも200名以上の聴衆が見られた。

4. 地域連携室の支援

地域連携室（現在、本学社会連携部）は、地域に根差した教育と研究を目指している本学において、大学と地域の架け橋となり、学生が地域とふれ合い活躍できる場、教員が社会貢献できる機会を創り出す役割を担っている。地域社会のニーズと本学の教育・研究活動とのマッチングを行い、教員と学生が活動に専念できるように、スケジュールの管理、学生や来場者の安全管理、学内における起案書作成、情報共有、写真及び映像の撮影、活動の記録等を行っている。筆者のゼミナールが取り組んだ様々な活動は、地域連携室の支援無くては成り立たなかったと

考える。

5. 考察

5-1 ぶんきょうにこにこルームで求められる音楽的活動

子どもが楽しそうにしていた活動と保護者が楽しかった活動では、打楽器アンサンブルで演奏した「アンパンマンのマーチ」と効果音を用いた絵本の読み聞かせが共通していた。

ぶんきょうにこにこルームで実施した活動の評価は全て「良かった」であり、その理由として書かれた内容から、今後の活動内容を検討する。まず、プログラムに関しては、子どもも大人も楽しめ、子どもが最後まで飽きなかった点について評価された。今回の活動では、演奏発表以外に親子のふれ合いあそびや、効果音を用いた絵本の読み聞かせを取り入れたが、他にも音楽を用いた活動を考案する必要があることが分かった。次に、演奏発表に関しては、生の演奏であることや、あたたかな音色、身近で参加しやすい形で開催した点について評価された。学生は音楽の専門家になるための教育は受けていないが、演奏の質を重視し、週に2、3回の合同練習を行ってきた。「未就学児を気軽に連れて行ける演奏会」と捉えた回答から、演奏の質はある程度担保する必要があることが分かった。学生の対応に関しては、子どもの興味を引く話し方や丁寧な対応が良かった、学生が楽しそうな様子だったので子どもも一緒に楽しんでいたという回答があった。そのため、来場者を楽しませるためには、学生自身が音楽や活動を楽しむことができているか、また自らが楽しんでいることを周囲に発信及び表現しているかが重要だと認識した。

今後取り入れて欲しい音楽的な活動や要望に関しては、再度の開催要望と、子どもが使える

楽器の体験があった。今回の活動では、安全面に配慮し、楽器に触れないようお願いしていたが、活動中に子どもが楽器に近寄って触れたような場面が見られた。そのため、楽器に触れ音を出す機会も設ける必要があることが分かった。

合奏やピアノで聴きたい曲の要望に関しては、多岐のジャンルに渡っていたことから、多くのレパートリーを用意しリクエストに応え演奏する試みもできればと考える。

5-2 A ショッピングモールの活動のふりかえり

A ショッピングモールにおける活動の反省点として、音響を事前に把握する点が挙げられる。司会用にマイクとスピーカーを持参したが、会場がアトリウムで2階まで吹き抜けという構造上、音が上に抜けてしまい聴衆に聞こえにくいことが当日になって判明した。音量調整や話し方には工夫したが、結果として、聞こえにくく伝わりにくいものであった。当日までに判明していれば、よりふさわしいものを準備することができたため、事前に会場の音響を把握し準備する必要があることが分かった。

5-3 ゼミナール活動の振り返り

活動は全て録画し、授業中に視聴し全員でふりかえりを行い、次回の活動に活かしている。筆者の観察では、初期の活動のふりかえりにおいては、それぞれの演奏技術やアンサンブルで合わせる技術に関する点が多く挙げられていた。しかし、様々な活動を経験するにつれ、演奏技術だけでなく表情や立ち居振る舞いについての言及が多く挙げられていた。学生は、演奏に集中することは必要であるが、学生自身が音楽を

楽しんでいる姿勢を参加者に発信してこそ、参加者が楽しめるものになるという気づきがあった。ゼミナールの指導、運営に当たっては、専門知識や技術の習得に留まらず社会性や主体性、実践力を高めることも目標としてきたが、実践と学びの往還ができたと考える。

6. 今後の課題

シラバスで明記した汎用的学習成果（問題発見・解決力、論理的思考力、自己管理能力、倫理観、コミュニケーション・スキル、チームワークに貢献できる力等）について、筆者の観察では、アンサンブル演奏における練習活動やイベントへの参加をとおして修得できたと考える。しかし、客観的な指標で一人ひとりの成果を測っていないため、今後の課題としたい。

また、学生が地域貢献活動をとおして、どのような気づきや学びを得られたか、地域貢献における教育効果も計りたいと考えている。

謝辞

本論で取り上げた活動において、ご協力いただいた地域連携室長、ぶんきょうにこにこルームのスタッフの方々に心より御礼申し上げます。

本論の活動は、平成29年度京都文教短期大学教育改革支援費を受けて実施したものである。

引用文献

- 1) 高倉秋子・奥村美恵子編著、こどもといっしょにたのしく打楽器、共同音楽出版社、p.8、2000
- 2) 川島智世、生後すぐからできる赤ちゃんのリズム体操、学研プラス、pp.42-45、2013
- 3) 前掲2、pp.70-71、2013
- 4) かがかい ひろし、だるまさんが、ブロンズ新社、2008